

令和元年6月8日現在

機関番号：23101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04153

研究課題名(和文) ベトナムのハンセン病村に住む子どもたちの自立支援と社会的統合

研究課題名(英文) Social integration and support for ex-leprosy patients' children in Vietnam

研究代表者

渡辺 弘之 (WATANABE, HIROYUKI)

新潟県立看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：10300097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナムではハンセン病元患者とその家族のための施設「ハンセン病村」があり、元患者同士の結婚・再婚により、子どもたちが誕生してきた。元患者の子どもたちは外部社会との接触において、さまざまな困難にぶつかる。そのため、本研究ではハンセン病元患者の子どもたちを対象にそのQOLを測定した。その結果、一般群の子どもたちと比較して、身体的健康、友だち関係、QOL総得点が有意に低いという結果がみられた。この結果について調査協力先のハンセン病村に報告を行い、子どもたちのQOL向上についての基礎資料を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ハンセン病元患者を親に持つことが子どもたちのQOLにどう影響を与えるかという点についての先行研究はほとんどみられなかった。本研究を実施した結果、元患者の子どもたちは何らかの身体的・精神的脆弱性(vulnerability)を抱えていること、その脆弱性は発達段階に応じて変化し、支援が必要な状態であることが明らかとなった。子どもはどの社会においても置かれた環境によってその資質の向上やQOLが変化する。この研究結果は元患者の子どもたちに限らず、社会的不利な立場に置かれている子どもたちへの支援を構築する上で基礎的な資料となり得る。

研究成果の概要(英文)：In Vietnam, there are institution for ex-leprosy patients and their family (leprosy village). In leprosy villages, children of ex-leprosy patients have been born. The ex-leprosy patients' children often have mental conflicts as they grow. This research aimed to measure the QOL of ex-leprosy patients' children. According to the survey findings, the score of physical, friend, and total were significantly lower than control group. This result was reported to the administrator of leprosy village, and organized to basic material for improving QOL of ex-leprosy patients' children.

研究分野：社会学

キーワード：ハンセン病 ベトナム 子ども QOL

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

ベトナムではハンセン病元患者とその家族のための施設「ハンセン病村」がある。ハンセン病村の住民の大部分は既にハンセン病から回復しているが、ハンセン病に対する偏見や差別のため、かれらはハンセン病村に長期滞在を余儀なくされている。これらの患者のほとんどは家や家族を偏見のために失ったが、多くの患者はハンセン病村で新しい配偶者を得、新しい家族を再構築した。その家族の再構築の結果、元患者の子どもたちがハンセン病村に誕生することとなった。これらの子どもたちが外部社会とつながる機会が増えるにつれて、さまざまな困難性にぶつかる。たとえば、ハンセン病にまつわるスティグマであったり、学校や職場でのいじめ、時には暴力などを受けることがある。先行研究では、ハンセン病村で生まれ育ったという理由だけで学校や職場でトラブルに巻き込まれる事例や、元ハンセン病患者の子どもたちが地域社会との関係から孤立しているという事例が紹介されている。子どもたちのこうした経験は、かれらの心に影響を与え、精神的な葛藤を引き起こしうる。そのため、ハンセン病元患者の子どもたちの抱える問題の要因について明らかにする必要がある。

### 2. 研究の目的

この研究の目的は、ハンセン病元患者の子どもたちの生活の質を測定することによって、子どもたちの抱える顕在的・潜在的な健康問題と精神的な葛藤について明らかにし、その結果を用いて子どもたちの包括的な健康状態を改善することである。

### 3. 研究の方法

ベトナムのハンセン病専門治療施設(病院 A)に併設されているハンセン病村にて調査が行われた。元患者の子どもたちの QOL を測定するために、Kid-KINDL<sup>R</sup> ベトナム語版が用いられた。Kid-KINDL<sup>R</sup> は子どもの QOL を測定に幅広く用いられている包括的健康関連尺度である。Kid-KINDL<sup>R</sup> は身体的健康、精神的健康、自尊感情、家族、友だち、学校生活 6 つの下位尺度から成り立っている。対照群については、病院スタッフの家族に依頼し、自由意志によって調査協力が可能な子どもたちが紹介された。データは病院 A の保健ワーカーと看護師によって集められた。統計処理には SPSS ver.21 を用い、5%を有意水準と設定した。

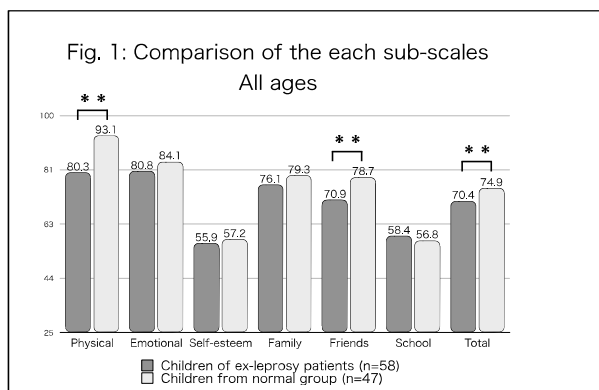
### 4. 研究成果

(1) この調査はベトナムの病院 A に併設されているハンセン病村(A村)にて実施された。A村には、2018年時点で 429 名の元患者(256 世帯)と 220 名の子どもたちが在住している。子どもたちの内訳は、幼稚園児 40 名、小学生 60 名、中学生 48 名、高校生 29 名、大学生 27 名、短大生 12 名、職業専門学校生 2 名、その他 2 名となっている。

2016 年、2017 年に、調査を行った結果、105 の事例が収集された。内訳は、元患者の子どもたち群が 58 名、一般群の子どもたちが 47 名である。全体の平均年齢は 12.9 歳、元患者の子どもたち群が 13 歳、一般群の子どもたちが 12.79 歳である。

#### (2) 全年齢層の比較

両群を比較した結果、身体的健康、友だち、そして QOL 総得点に有意差がみられた。これらの下位尺度について、元患者の子どもたち群が有意に低かった (Fig.1)



### (3) 小学生の比較

両群の小学生生徒について比較してみたところ、有意差はみられなかった。

### (4) 中学生の比較

子どもたち群の身体的健康と QOL 総得点のスコアは、一般群の子どもたちより低かった。元患者の子どもたち群の結果については、家族、友だち、そして学校生活で極端に低い外れ値がみられた。

### (5) 高校生の比較

両群の高校生生徒を比較すると、身体的健康と学校生活の下位尺度に有意差がみられた。元患者の子どもたち群については、身体的健康のスコアが一般群の子どもたちより有意に低かったが、学校生活のスコアについては一般群の子どもたちより有意に高いという結果だった。

### (6) 元患者の子どもたち群における性別による違いの比較

元患者の子どもたち群を性別によって比較してみたところ、家族に有意差がみられた。小学生生徒については性別による違いはみられなかった。しかし、中学校生徒の場合、男子生徒の自尊心と家族の下位尺度は女子生徒に較べて有意に低かった。高校生生徒の場合、男子の QOL 総得点は女子生徒より有意に低かった。

### (7) 研究の総括

元患者の子どもたち群の QOL は小学校の段階では良好さが保たれているが、かれらが成長にするにつれて QOL は低下がみられ始めていた。小学校から中学校にかけて、元患者の子どもたち群の身体的健康と QOL 総得点は対照群よりも有意に低かった。この結果は、元患者の子どもたち群の QOL は中学生の段階で好ましくない状態に陥ることが分かる。高校生の段階では、元患者の子どもたち群の身体的健康のスコアは対照群より有意に低かったが、学校生活の面においては対照群より有意に高かった。元患者の大部分は社会経済的な問題を抱えていることから、子どもたちに高等教育の機会を与えることが難しいと考えられる。元患者の子どもたちに対して高等教育を受ける機会を保障するために、経済的な支援が必要と考えられる。

元患者の子どもたち群を性別によって分析すると、小学校の段階では違いがみられなかった。しかし、小学校から中学校にかけて男子グループの自尊心と家族関係のスコアは女子グループより有意に低く、高校の時期になると、QOL 総得点も有意に低かった。女子グループと比較すると、思春期の男子グループは内面的な感情や精神的な葛藤を他者に伝えることが困難になると思われる。思春期の子ども集団は心にさまざまなストレスや不安を抱いている。それゆえ、性別に関係なく、子どもたちの抱える感情を自由に話せる機会や場所、メンターなどの存在が QOL 向上のために必要と考えられる。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

渡辺 弘之、国際保健医療学会東日本部会、ハンセン病元患者の親を持つ子どもたちの QOL 評価 - ベトナムでの事例より -、2017

〔図書〕(計 1 件)

渡辺 弘之、株式会社明石書店、ベトナムに生きるハンセン病の人々と自立への支援、2018、353

〔産業財産権〕  
出願状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：  
ローマ字氏名：  
所属研究機関名：  
部局名：  
職名：  
研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：  
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。